

復活！ 突撃レポート

安永さんのお宅へ!!

～田頭・岡の 家族に乾杯 in 長崎～

〈長崎に向かう岡の車の中で……〉

- 田「初教かわらばんの突撃レポート、久しぶりに、田頭&岡コンビの復活です！」
- 岡「コンニチハ、家族に乾杯、司会の笑福亭鶴瓶です。違いました。岡です。前回、私たちは福岡県にお邪魔しました。」
- 田「あれは、赤穂浪士の討ち入りがあった年でしたか？」
- 岡「田頭先生、ちょっと待って下さいよ。そんなに昔じゃないでしょう。でも、さっきの私の冗談より面白すぎますよ。」
- 田「いやあ、それほどでもおー。さあ、今回は、もっと西に行って、長崎県東彼杵郡の波佐見町です。」

〈あいにくの雨でしたが、波佐見の町にだんだん近づきます。〉

- 岡「いい所ですね、歴史があって。陶器の町、また、日本の棚田百選となった鬼木棚田もあります。それはともかく、安永さんのお父さん・お母さんとも親しくさせていたくようになり、是非ともお訪ねしたいと思っていました。」
- 田「そうそう、念願でした。安永さんたちは、いずれも長崎県立川棚高校出身の三姉妹で、また揃って初等教育学科に来ていただきました！」
- 岡「ありがたいことですねー、田頭先生。」
- 田「本当に感謝せずにはられません。そして、私たちの学科が、いかに保護者の皆様から信頼されているかを象徴することでもあるんですね。」
- 岡「現在、三女的美香子さんが四年に在学中(28期生・幼児教育コース)で、長女的美由紀さんは17期生・情報教育コース、次女のあゆ香さんは19期生・理科専修でした。」
- 田「本当は、初教の保護者の皆様すべてのお宅にお邪魔して、お礼を申し上げたいのですが！いや、これは本心から、そう思います。」
- 岡「残念ながら、それができないのですから、この度、私たちの知る限り、初めてお嬢さんの三人とも初教に入れていただいた安永さんのお宅に、保護者代表という意味で、是非ともお礼を申し上げたいと思い、お邪魔させていただくことにしました。」

～とうとう安永さんご夫婦と再会。おばあちゃんにもお会いでき、感激しました。田頭・岡は、ご夫婦にお礼を申し上げに行きますから、その他はお構いありませんように、とっておりましたところ…、サプライズが待っていました。三姉妹さんとも揃ってお出迎えていただき、さらには、美由紀さんとともに旦那様とお二人のお嬢さんも帰省され、迎えて下さっていました。そのあとは、積もる話をたっぷりして、その上に言葉では言い尽くせぬほどの歓待をしていただきました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。～



〈そして、かえりの車中です。〉

- 田「いやあ、お父さん・お母さんが、三人の娘さんを広島大学の大学に行かせるために、それはそれは大変だったけれども、娘のためなんだから、その時も今で

レポーター

田頭穂積、
岡 利道



しあわせいっぱい安永さんご一家(2011年6月11日)



田頭・岡も加わって

- も、これっぽっちも苦労だとは思っていないですよとお話された時は、涙が出ましたね。」
- 岡「田頭先生もそうでしたか。美由紀さんも、あゆ香さんも、美香子さんも、お父さん・お母さんに、ありがとうございますと心から言っておられました。」
- 田「美香子さんも、これからの励みになると話しておられたのが、お二人のお姉さんのお話でした。」
- 岡「美由紀さんは、初任教で教えた子が、いまだに慕っていてくれて、ことあるごとに連絡をくれると喜んでおられました。」
- 田「あゆ香さんは、正採用が決まって、臨探をしていた小学校を去る時に、教え子が、あゆ香先生の学校に転校して着いて行きたいと言ってきて感激した、という話をされましたね。」
- 岡「美香子さんにとって、立派なお手本となるお姉さんであると同時に、教育者としてのいい先輩でもあったと思います。ご両親も、満足そうにお嬢さんたちを見つめていらっしゃいました。」
- 田「安永家には多大なご迷惑をおかけしたんですが、行かせてもらって、本当に良かったですね。明日からも、在学生のために、そして卒業生のために、頑張っていきたいと思います！」
- 岡「はい。美由紀さんも、あゆ香さんも、しみじみと語っておられましたね。初教での一年一年を大事にして、先生たちや仲間を信じて一杯勉強をした、と。それが、自信に繋がって、今も支えとなっているんですよ、と。美由紀さんは、子育てにひと区切りがいたら、また小学校の教員にもどります、と笑顔で言われました。また、あゆ香さんは、いい保護者や子どもたちに恵まれ、ありがたい、郷里でずっと小学校の教員を続けていきます、と力強く語っておられました。」

〈すばらしいお土産話を胸に、ほのぼのとした気持ちで広島に向かう二人でありました。〉

初教 KAWARABAN

第13号
2011.7.15

広島文教女子大学
教育学会 発行

初教
バレーボール
大会の様子
2011年6月4日実施



ほっと ニュース

教育実習の様子

初教でも「中学校教員免許」 を取得できるようになりました!!

学科長 岡 利道

はじめに このように、新しい形を取り入れたのは、児童教育コース・教育心理学コースに進む学生の選択の幅を広げるためだということです。従来からあるところの、「小学校一種免許状」と「幼稚園一種免許状」を取得する形は、それはそれで手堅く、初等教育の実践力を身に付けることができる、言わば「基本形」です。そこに、強い希望があれば「中学校一種免許状」の取得をめざすことができる、というプラス・アルファの魅力を付け加えたわけです。

幼児教育コースの場合で、説明することにしてしまおう。ここでは、「幼稚園一種免許状」と「保育士資格」の取得をめざすというのが「基本形」です。強い願いがあれば「小学校一種免許状」の取得をめざすことができる、という選択の幅を設けているわけです。

その意味での「基本形」で、日々勉強に取り組んでいる学生には、私たち教員はこれまでどおり応援していきますので、どうかよろしくをお願いします。

さて! 以上のことを前提として、いよいよトピックス、メインのお話に入っていきます。すでに在学生のみなさんは承知のことと思いますが、タイトルにありますように、わが初教で「中学校教員一種免許状」を取得できるようになりました!

詳しく言いますと、それらの免許状の取得をめざすことができるのは、児童教育コース生・教育心理学コース生で、教科は「国語」ないしは「英語」となります。「英語」については現三年生から、「国語」については現一年生から、それぞれ取得可能となりました。

また、免許状だけでなく、「児童英語教員資格」も取得をめざすことができます。

「国語」の免許状取得に関しては、初教の専門科目と、教職センター所管の教職科目を履修していきます。

ただし、「英語」「児童英語」の場合は、多少、方法が異なっており、教科内容に関する科目は、人間言語学科・グローバルコミュニケーション学科で大部分を履修することになっています。

この方法を取り入れた目的は、小学校の教員として、「国語」ないしは「英語」の指導の面、より専門的な実践力を身に付けるためです。小中一貫校が増えてきていますので、それに対応できるというのも、メリットとなるでしょう。「国語」は、何と言っても小学校で最も配当時間数が多い科目であり、より自信をもって指導に当たることができるでしょう。「英語」「児童英語」の場合、小学校で「外国語活動」が導入されたこともあり、その指導に生かされるということも期待できるはずですよ。

さあ、将来のさらなる飛躍をめざし、希望のあるみなさんは、このシステムを大いに利用してください。そして、卒業生のみなさん、後輩たちがあとに続いていきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくをお願いします!

こんにちは(^ ^)

今、初教28期生全員、それぞれの進路に向かって勉強や就職活動を頑張っています。幼児教育コースの4年生も6月に最後の教育実習を終えました。

今回のほっとニュースは、そんな4年生から、大学での大きな学びの一つであり、経験の場である教育実習について語ってもらいます!!

- 岩永(以下「岩」) 佐々木(以下「佐」)「(まずは)幼稚園での教育実習おつかれさま!!」
- 上垣内(以下「上」)「ありがとう。無事終わったよ！」
- 佐「いい顔してるね!最後の実習はどうだった？」
- 上「めっちゃ感動!号泣しまくったよー!もう子どもたちに会えないと思うとさみしかったです。」
- 岩「本当、感動だよ。私たちも約一年前に行った時はそうだったよ。」
- 佐「私も!感動の連続だった。ところで、二人は実習に行く前、どんな気持ちだった？」
- 岩「不安で仕方なかった。模擬授業はしたけれど、45分フルですることがなかったから……」
- 上「私も。だから、同じ不安を抱えた友達と話して励まし合ったり、ピアノや手遊びの練習をしたりしてたよ。あと、体調管理にすごく気をつけていた。」
- 佐「そっか……。私も不安でいっぱいだったけど、それ以上に期待も大きかったな。子どもと関わることがすごく楽しかった。担当学年は?ちなみに私は6年生だったよ。」
- 岩「私は5年生。35人いたからけっこう多かったな。」
- 上「保育園と幼稚園の両方あったけど、附属幼稚園では異年齢クラスで、他はだいたい全クラス入ったよ。」
- 佐「なるほど。実習では模擬授業や設定保育をするよね。どうだった？」
- 岩「そうだなあ。ちょうど運動会シーズンだったから、練習の時間も多かったんだよね。組み体操やリレーがあってね、なんと本番では私が配属されたクラスがリレーで優勝したの!!すごく感動した!!あと、私の理科の査定授業で、子どもが助けてくれたのがうれしかったな。普段、手を挙げない子も発表してくれて……。感激!!」
- 佐「私も子どもにたくさん助けられたよ。子どもがいるから、授業ができるということを改めて実感したなあ。」
- 上「小学校の授業も、難しそうだね。私も、絵本の読み聞かせや、

ピアノ、手遊び、全日保育……たくさん経験させてもらえたなあ。でも、とにかく子どもはかわいかったよ!!これだけは無条件だね!疲れも忘れちゃうくらい。小学生はどんな感じだった？」

- 佐「本当に個性豊かで、みんなかわいかった!一人ひとり笑顔は最高に輝いてたよ。」
- 岩「うんうん。私、すごく感動したことがあるんだよね。リレーの練習を毎朝したんだけど、その時の子どもたちの成長の姿がすばらしかった。一人の子が“みんなリレー勝ちたくない!?俺は勝ちたい”と呼びかけたの。それ以来、クラスが一丸となって練習に取り組み始めて。主体的な姿にたくましさを感じて、感動したよ。」
- 佐「やっぱり子どもはすごい!!ところで、先生からはどんなことを学んだ？」
- 上「一人ひとりの心に寄り添うことかな。すごく大切だと思う。」
- 岩「授業で、発問する際に知識の幅を問うものではなく、考えの幅を問う質問を心がけることを学んだよ。子どもにとって、学ぶ意欲につながる授業をするために。」
- 佐「そうだね。子どもの心に寄り添う共感的な関わり方をすることや、学習意欲につながる授業をすることはとても大切なことだね。では、最後に、これから実習に出ていく後輩へメッセージを送ろう!!」
- 上「そうだな……。大変だし、つらいこともたくさんあると思うけど、仲間がいると思えば、きっとどの実習も乗り越えられるよ。頑張ってね。」
- 岩「体力勝負!!健康管理はしっかりと!!」
- 佐「不安があっても、きっとそれ以上に得るものがたくさんあると思うから、充実した学びをしてきてね。」



教育実習は不安と期待の両方の気持ちがあると思います。しかし、本当に素晴らしい経験ができる、最高の「学び」の場であり、「成長」の場になると信じています。教育実習を終えた4年生はこの経験をこれからの自分に生かし、これから実習に出るみなさんは前向きな気持ちで臨んでください。これからは、初等教育学科みんなで、切磋琢磨、成長していきましょう(^ ^)♪

編集委員4年 岩永真紀子・上垣内美紗・佐々木舞輝